

長野大学での教育実習

1. 教育実習の概要

教育実習は、観察・参観・実習という方法で教育的実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標としています。

長野大学では、取得を希望する免許種によって多い学生で4年次に3回（小学校、中学校、特別支援学校）の教育実習を行います。教育実習期間は、中学校で120時間以上（3週間以上）、高等学校、特別支援学校で80時間以上（2週間以上）となっています。以下は、2024年度の校種別の教育実習校（延べ32名）です。

実習校	人数
小学校	6名
上田市内	2名
上田市以外の長野県内	2名
長野県外	2名
中学校	15名
上田市内	7名
上田市以外の長野県内	3名
長野県外	5名
高等学校	1名
長野県外	1名
特別支援学校	10名
上田市内	2名
上田市以外の長野県内	3名
長野県外	5名

※小学校教諭二種免許状の取得は、玉川大学連携プログラムによる。

以下は、教育実習を終えた学生がまとめた「2023年度教育実習報告集」からの引用です。

教育実習を通じて、生徒ともに創る授業を最後まで意識して取り組むことができた。…(中略)…2年3組の授業では「資料等を読み解く中で得た情報を整理し、自分の言葉でまとめられたり振り返ることができたりする力を身に付けてほしい」というねらいを考え、生徒の実態にあった授業の展開や資料作成上の工夫を行った。その結果、私が予想していた以上の生徒の反応や姿を目にすることができ、準備の段階から生徒の反応や姿を予想して授業を創ることが、生徒ともに創る授業を展開することにつながることを学んだ。(中学校)

教育実習の成果として、生徒と一緒に考えて行動することができたことを挙げたい。実習2週目の作業学習では、Aさんと看板づくりを担当した。Aさんは、自分の作りたい看板をイメージしていたため、Aさんの意見を取り入れながら作成した。…(中略)…細かい作業や色塗りといったAさんの得意、長所を生かしながら、私は作成しやすいように周りの環境を整えたり、見やすい色は何かを聞いたりといったサポートを行った。Aさんはイメージ通りの看板ができ、「頑張れた」「面白かった」という感想を私に伝えてくれた。(特別支援学校)

2. 教育実習に向けて

長野大学では、3年次の後学期「教育実習指導」という授業を設定しています。3年次生が教育実習に向け1人1回の模擬授業を実施します。発達支援コースに所属する1～4年次生が児童生徒役として参加します。

3年次生は、学習指導案の作成や教材等の作成を行い、また、何度もプレ模擬授業を行うなど、模擬授業に向けて全力で取り組みます。こうした取組のなかで、これまでの学修を振り返り、教育実習に向けて教員として必要なより実践的な資質・能力を身に付けていきます。



学園祭で実施した模擬授業の一コマ



各班の意見を Google スライドで共有するなど、ICT の活用も積極的に行っています。



模擬授業後、模擬授業のよかった点や改善点などについて白熱した議論が展開されます。



最後に、担当教員から、よりよい授業に向けた助言があります。

3. 教育実習後

長野大学では、教育実習を行った4年次生による教育実習報告会を開催しています。また、教育実習の成果と課題、学習指導案等をまとめた「教育実習報告書」を毎年度作成しています。この「教育実習報告書」は、3年次生以下の学生にとって、自身の教育実習に向けての貴重な財産となっています。